

書誌第101号

原備

本州南・東岸水路誌

本州東岸・本州南岸
四国南岸・南方諸島等

平成26年3月刊行
(2014年3月)



海上保安庁

火山列島 (海図 W86、W2130)

概要 硫黄列島ともいい、 $24^{\circ} 13' N \sim 25^{\circ} 27' N$ の間で、ほぼ南北の一線上に約35Mの間隔で並ぶ北硫黄島、硫黄島、南硫黄島の3火山島から成る。

この列島は新規の火山脈で、周辺の海中には多くの海底噴気孔があって、火山ガスを噴出している。

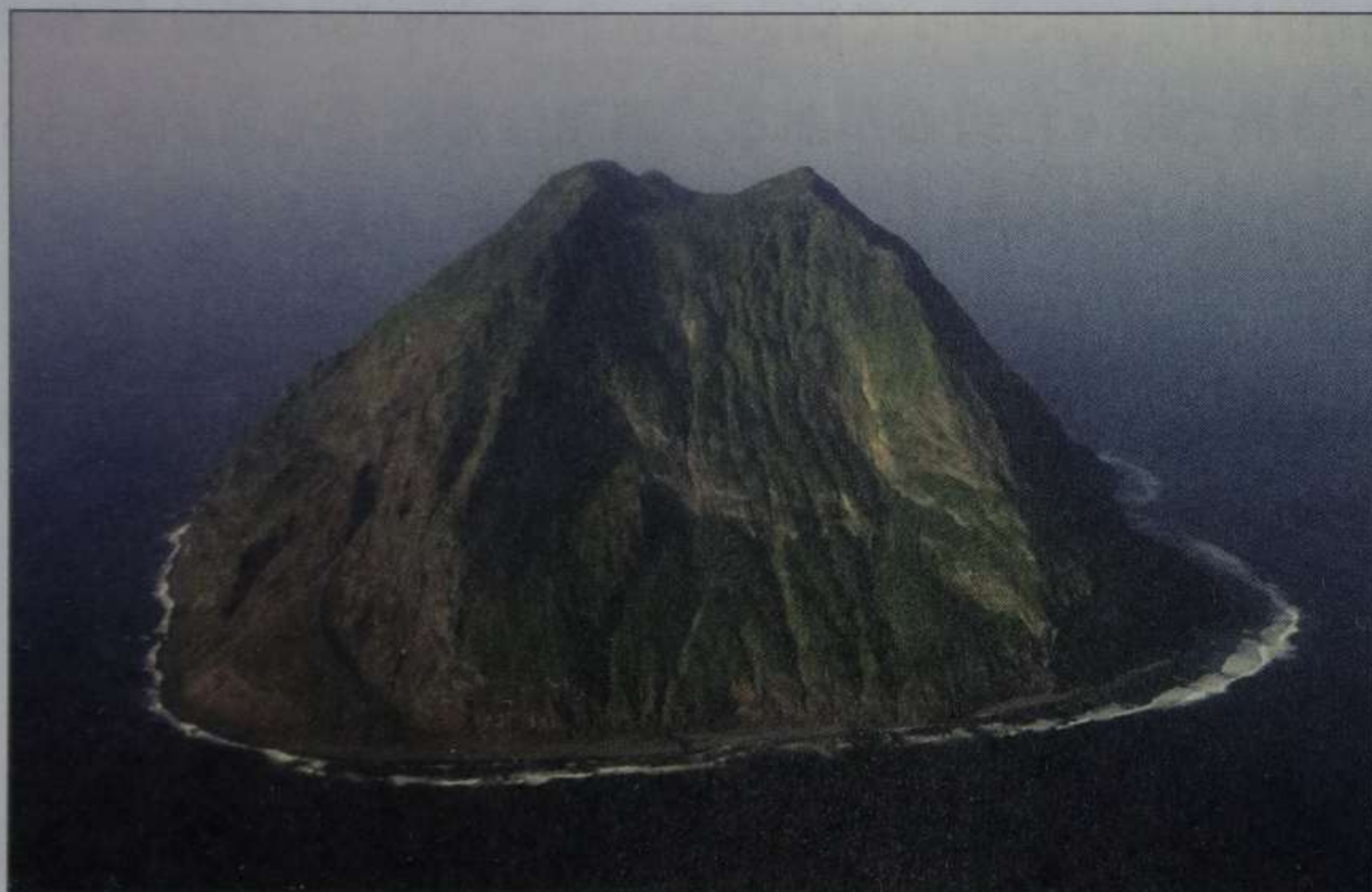
5 島上でも硫気を噴出し、特に硫黄島は余熱がまだ止まないで、地熱の高い所が少なくない。

これら3島の周囲は深水であるが、各島とも距岸2M前後に水上岩又は暗礁がある。

目標 北硫黄島及び南硫黄島は高くて顕著であるが、硫黄島は平坦であり顕著でない。灯台は硫黄島飛行場灯台があるだけである。

10 **警戒** 東京海洋大学の汐路丸の報告によれば、硫黄島西岸沖に錨泊中、海底地震によると思われる異常衝撃を船底に2回感じたという(1969年)。

最近では、2001年9、10月に硫黄島西岸で、海底水蒸気爆発があった。



写真(左)：南西方上空から北硫黄島を望む。
(2012年12月撮影)
写真(右)：東方海上から北硫黄島を望む。
(2010年2月撮影)

15 **北硫黄島** ($25^{\circ} 26' N$ $141^{\circ} 17' E$) (海図 W50) 火山列島最北の島で、島の中央部を南北に山が連なり、最も高い山は南部の榊ヶ峰(792m)である。

島岸は東側と北西側との一部のほかは険しいがけで、その高さ約400mに達する所がある。

浜は南西側の一部を除くほか岩又は石浜で、礁が浜に沿ってあり、その外側は急深である。常にいそ波が高いので、船舶の着岸は困難である。

20 上陸所は、島の西部にある西村の北方約400mと東部にある石野村の南方約500mの、それぞれの岩礁の切れ目にある。

気象 春、夏季は南西風、秋季は北東風、1、2月は西風が多い。強風は8~10月に多く、6、7月は海上が平穏な日が多い。また、4~6月は雨が多く、霧のかかることもある。

目標 北硫黄島は晴天の夜間には、約20Mからの視認も困難でない。

25 榊ヶ峰(高さ792m)は、南方から見れば円すい形状であるが、その他の方向からは北方の山並みとともに山脈状を成してレーダの好目標である。

噴火浅根 ($25^{\circ} 27' N$ $141^{\circ} 14' E$ 、最小水深14m)は北硫黄島の西北西方約2Mにある海底火山で、底質岩及び砂、東西の長さ約0.5Mである。強風のときにこの火山は破浪するが、周囲は深水である。

噴火浅根が泥土、灰、火炎を噴出したのは1880年で、米艦ALERTが目撃したというが、その翌年は火炎の噴出はなかったという。また、1930~1968年にかけて、しばしば海底噴火があった模様で、火炎、硫黄、

水柱等の噴出が視認されている。その後現在までしばしば変色水が確認される。

海徳海山 (26° 07' N 141° 06' E) は、北硫黄島の北北西方約 40Mにある最小水深 95mの海底火山で 1984 年に海底噴火した。

5 **硫黄島** (24° 47' N 141° 19' E) (海図 W50) 火山列島のほぼ中央にあり、列島中最大の島で、平らな台地状を成し、北東～南西の長さ約 8.5kmである。島の中央東側一帯は飛行場で南西端に摺鉢山がある。

北ノ鼻の西方約 850mに海底噴気孔がある。また、南東岸南西部至近にある**ニツ根**の東北東方約 0.8M及び 1Mにそれぞれ海底噴気孔がある。

10 10m等深線はおおむね北東、南東両岸では 0.6M以内、西岸では 0.4M以内にあるが、東側には東岩、西側には監獄岩などがあり、また、海岸近くには水上岩、干出岩及び暗岩が散在する。

10 硫黄島は、地熱の高い所が多くて地面が極端に乾燥し、谷川や井戸水はなく、島の大部分には樹木がない。現在は自衛隊関係者その他がいる。

係船浮標 西岸の釜岩 (高さ 10m) の南東方約 400～650mに 4 個の係船浮標 (赤色、白色各 2 個、係船能力約 3,000 t) があり、自衛隊専用である。

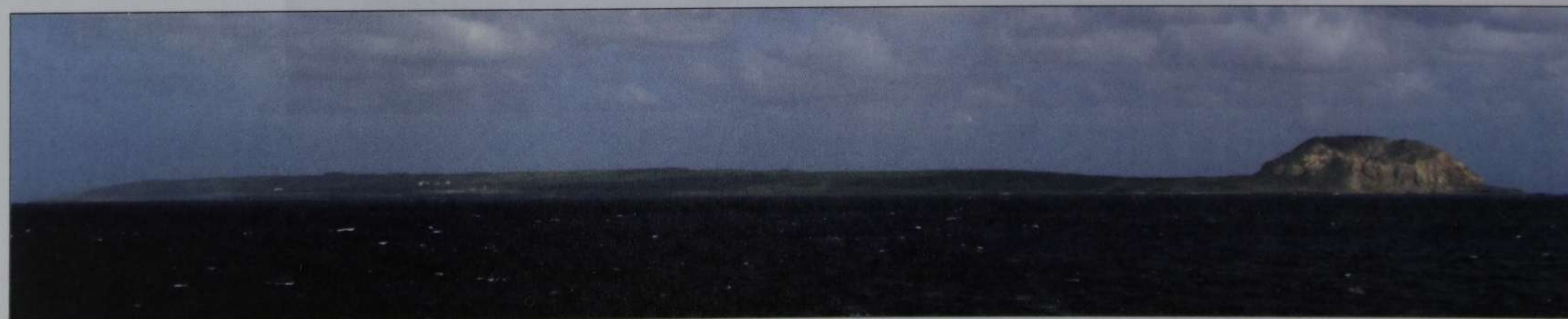
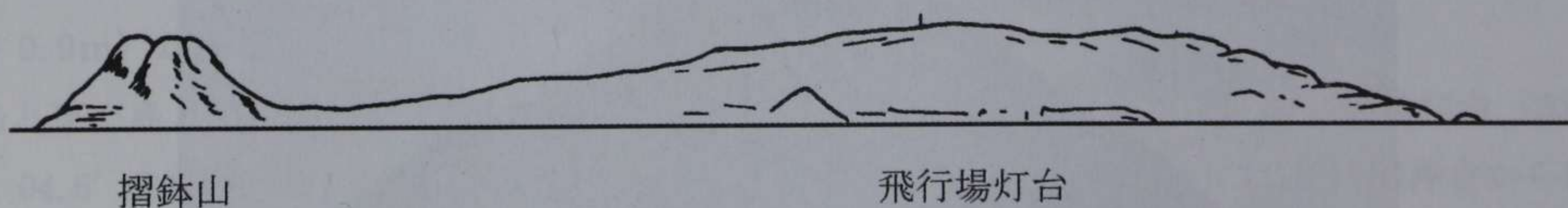
目標

地物名	概位	備考
摺鉢山	24° 45' N 141° 17' E	高さ 161m、円すい形状の火山で、じょうご状の噴火口がある。顕著
飛行場灯台	24° 46.8' N 141° 19.4' E	島の中央付近、地上高約 112m
東岩	24° 47' N 141° 23' E	高さ 4mの岩
監獄岩	24° 48' N 141° 17' E	南北約 1km、東西約 200mの細長い高さ 14mの岩

15

硫黄島対景図

南東方から硫黄島を望む



北西方から硫黄島を望む

20

錨地 **南錨地**は南村の沖で、摺鉢山と東岩とを結ぶ線のすぐ外側の水深 12mの所にあり、底質砂及び粘土で錨かきが良い。

釜岩の南南東方 750～900mの所に錨地があるが、底質粗砂で急深のため、風力 5 以上になると走錨のおそれがある。

前記錨地は、係船浮標区域で海底にその錨鎖があるため、錨泊は非常に危険である。

南東の風波の強いときには、釜岩の西北西方550m付近に避泊地が得られる。

注意 硫黄島は現在も隆起し続けており、殊に西岸の釜岩付近及び北東岸は隆起が著しく、隆起のため陸岸が広がっているという。

5 同島に接近又は投錨するときは、水深の変化に十分に注意を要する。

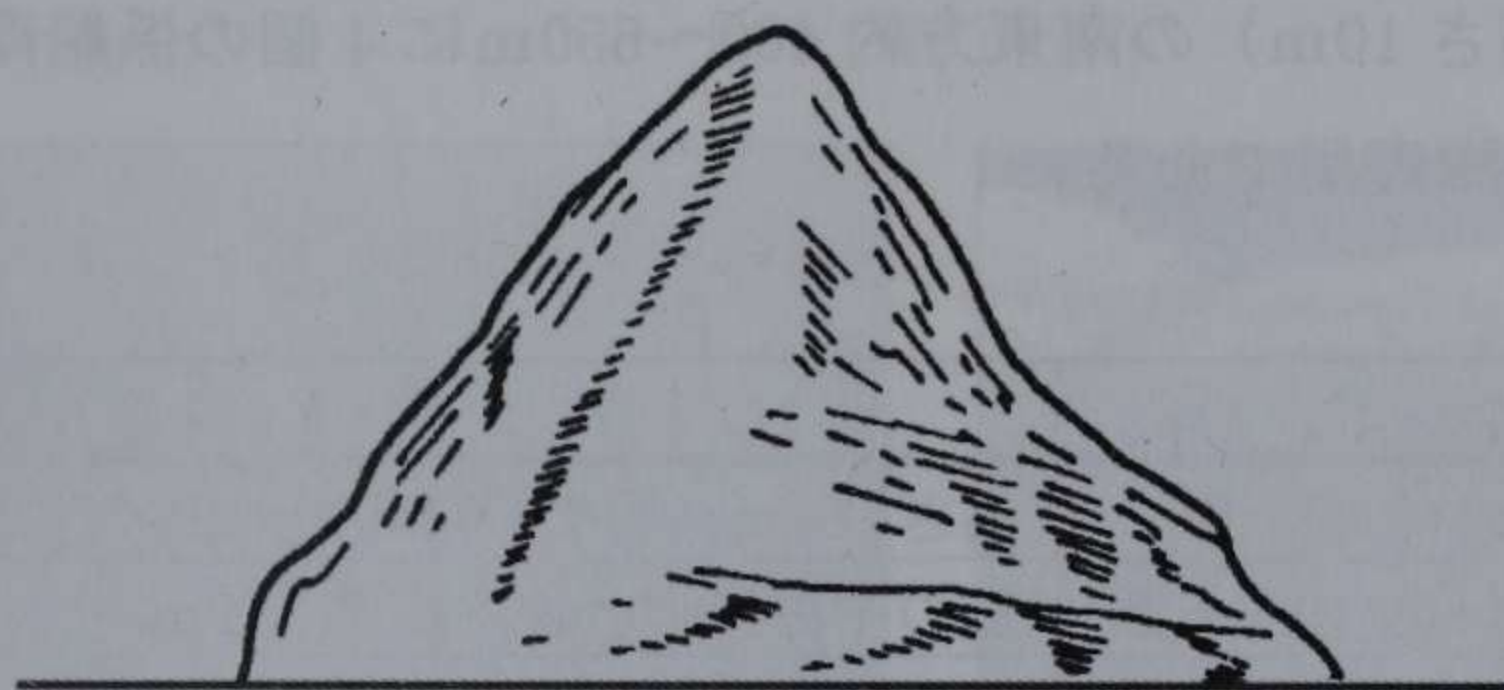
南硫黄島 (24° 14' N 141° 28' E) (海図 W50) 火山列島最南方の島で、直径約1.9kmである。島岸はがけ又は石浜で、周囲に岩礁が散在する。島内には淡水がなく、住民もいない。

原生自然環境保全地域に指定され、全域が立入制限地区となっている。

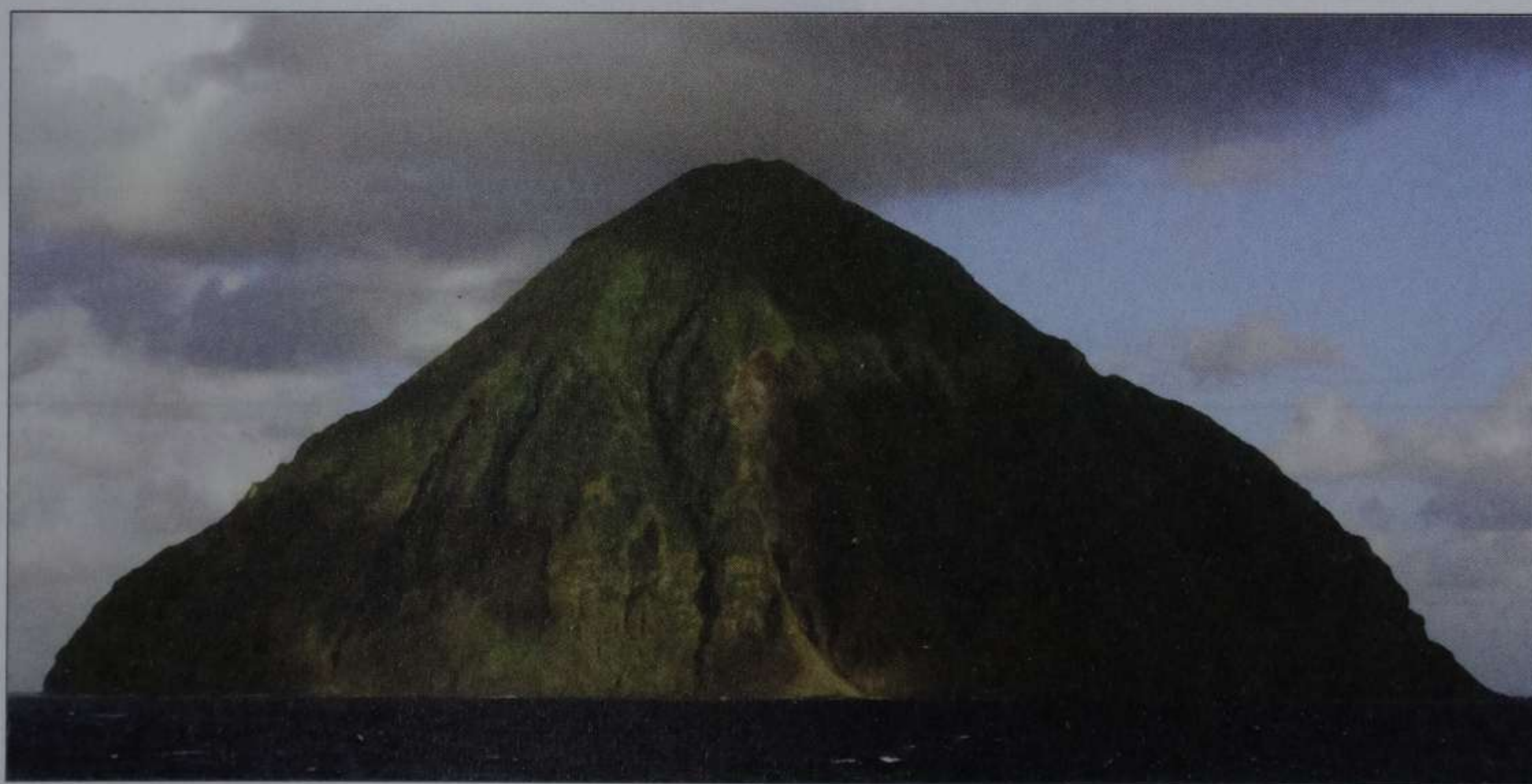
10

南硫黄島対景図

南南西方から南硫黄島を望む



021° 10M



西方から南硫黄島を望む

15

目標

地物名	概位	備考
松江岬	24° 15' N 141° 28' E	岬の前面に洗岩がある。
三星岩	24° 14.6' N 141° 27.1' E	島の北西方約400mにある高さ5.3m、3頂の灰白色の岩
島頂	24° 14' N 141° 28' E	高さ916mの円すい形、やや南北に長くて、周囲は険しい。島の頂部は雲霧に隠れて見えないことが多い。
南埼		島の南西端、茶色のがけ

警戒 南硫黄島付近には、南東方に延びる多数の海底火山がある。

福德岡ノ場の礁は南硫黄島の北方にあり、楕円形をした平坦な台地である。同場には1904年に島ができたが、130日余を経て消失した。次いで1914年1月にも島ができ、翌年水没したものである。最近は2005年7月及び2010年2月にも海底火山噴火があった。いずれも新島の形成にいたらなかったが、火口数が増加した。

5 それ以降も現在まで、常態的に変色水が認められるなど、火山活動を継続していることがうかがえることから、付近航行の船舶は第2編 航路記 第3章 東京湾～小笠原群島 「海底火山の付近を航行するときの注意」(52ページ)を参照し、特に警戒を要する。

変色水 次表のとおり、当庁及び海上自衛隊の観測により、南硫黄島南東方で変色水が視認されている。

年 月	名 称	概 位	変 色 域
1978年3月	南日吉海山〔日吉沖ノ場〕	23° 30' N 141° 55' E	直径約4M
1979年7月	日光海山〔日光場〕	23° 05' N 142° 19' E	直径約500m
1980年1月	福神海山〔福神岡ノ場〕	21° 56' N 143° 28' E	東西約450m、南北約900m
1981年1月			長さ200m、幅50～100m
1982年1月			長さ5,000m、幅300m
1982年12月			直径100m
1992年2月	南日吉海山〔日吉沖ノ場〕	23° 30' N 141° 56' E	長さ1,000m、幅700m
1996年1月			南北約6,000m、東西1,000m

第3節 その他の諸島

沖ノ鳥島 (20° 25' N 136° 05' E) (海図W49)

概要 東西の長さ約4.5km、幅最大約1.7kmの長だ円形をした環礁である。

15 礁湖内の水深は1～5mであるが、全面に無数の浅水のさんご礁が散在しており、同環礁の外縁を取巻くように干出部(干出約1m)がある。環礁の西端付近には北小島(高さ1m)があり、その東方約0.7Mに東小島(高さ0.9m)がある。

北小島と東小島との中間付近に観測施設が設置されている。同施設(北西端に沖ノ鳥島灯台(20° 25.4' N 136° 04.6' E)がある。)は、沖ノ鳥島の初認に有効で昼間の視界良好時には約14M沖合から視認できた(眼高約9m)。

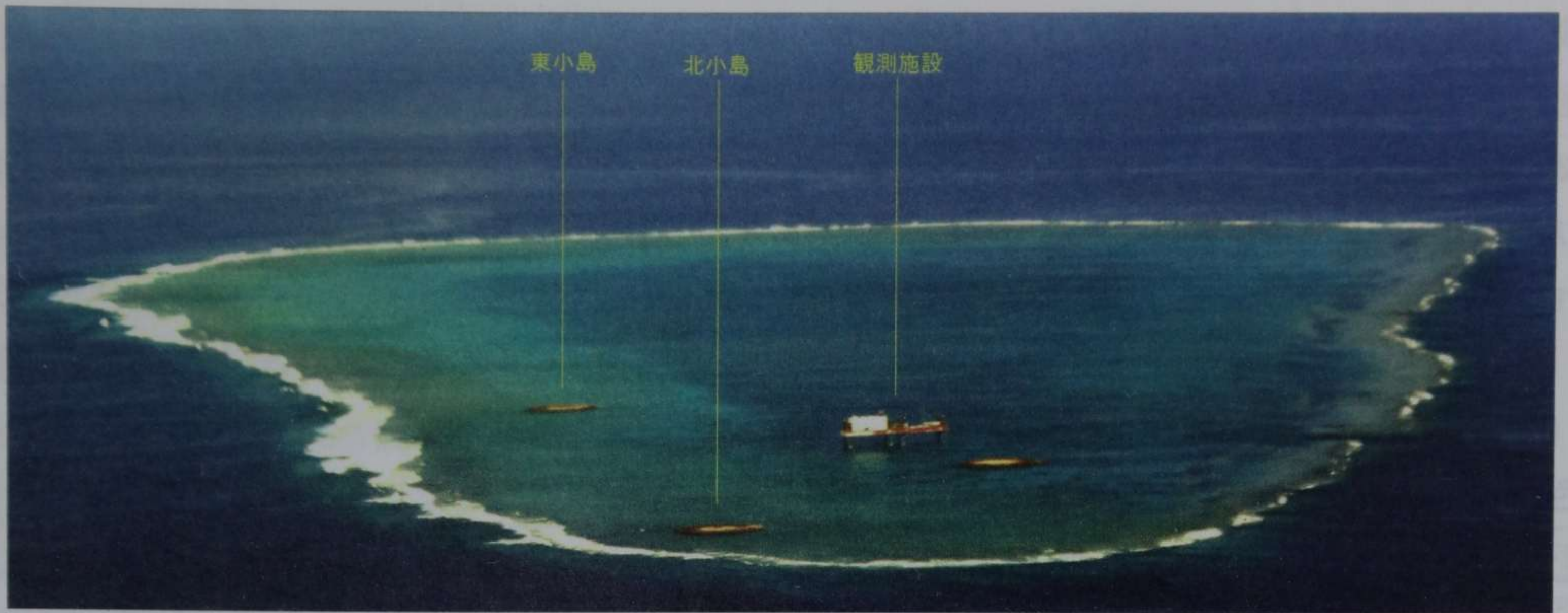
20 環礁の西部南側に礁湖内に通ずる幅約15m、水深約6mの水路があり、低潮時には約0.3M沖合から識別(水路は薄青色、環礁外縁は茶褐色)できる。

ボートによるこの水路への進入は、南～南西の風が10m/s以上又は南寄りのうねりが3以上の場合は、困難である。その水路の北北西方約310mには、コンクリートブロック造(直径約40m)の構造物があり、高潮時には冠水して波紋を生ずる。

25 南南東約0.1Mに沖ノ鳥島沖GPS波浪観測灯浮標(20° 24.1' N 136° 06.6' E)がある。

沖ノ鳥島は周囲が急深であり、砕波する環礁外縁と薄緑色の環礁内部とにより外洋と識別されるが、距岸2～3Mまで接近しないと視認は困難であった(眼高9m)。

また、レーダでは確認が困難であり、海上平穏な場合は約5M沖合から環礁外縁の破浪の映像を得るが、スクールや漁船と見誤ることがある。したがって、船舶は沖ノ鳥島を十分に離して航行した方がよい。



西方上空から沖ノ鳥島を望む

(2012年5月撮影)



東小島



北小島

南鳥島 (24° 17' N 153° 59' E) (海図 W48)



南方上空から南鳥島を望む (2012年5月撮影)

5 **概要** 1辺の長さ約1kmのほぼ正三角の平らの低い小島で、島岸は白色のさんご円礫や貝殻に少し砂を混じえた広い浜で、大きな群石が散在する。その周囲をさんご礁が囲み、所々沖合まで延びている。上陸できるのは島の南側と北西側だけで、その他の所は大きな波がある。島にはパイナップルがまばらに生え、ヤシ、アメリカスギ、リュウゼツランなどが繁茂している。島には気象庁職員等が駐在している。

島の北西側に滑走路があり、北東側に航空無線標識局がある。

10 **気象** 年間を通じて東寄りの風が多く、平均風速は10月～翌年4月には5m/s以上であるが、夏季はやや弱い。気温は高く年平均25.4℃で年較差約6.9℃である。最高35.6℃、最低15.6℃の記録がある。降水日数は年間を通じてやや多いが、降水量は少なく、年平均約1,080mmで、2、3月は40～50mmである。

2、3月には薄い霧がかかることがある。

15 **上陸所** 最良の上陸所は島の南岸中央部にある舟艇係留地で、西側の防波堤(長さ約20m)及び東側の防波堤(長さ約30m)に囲まれた入口の幅約25mの小船だまりがある。南寄りの風7～8m/sで上陸不可能になるといふ。北西岸中央部にさんご礁を切り通した舟艇水路があるが、分かりにくいといふ。

目標

地物名	概位	備考
航空無線標識局	24° 17.5' N 153° 59.0' E	島の北東部
防波堤	24° 17.0' N 153° 58.7' E	南岸の中央部、白浜に黒く明確

南鳥島はレーダの好目標となる。舟艇係留地の防波堤は南方から接近する船舶に対して、非常に良いレーダ目標となる。

20 **錨地** 気象庁のチャーター便(貨物船1,000t級)は上陸所の南南西方約250m付近に錨泊するといふ。